

折君、下村爲山君も亦時に俳畫を巧みに畫く、其他の洋畫家

日本畫家にも三四の俳畫をかく人はあらう。

△然しこれが明治の俳畫である、後世に胎す程の作品は未だ

出來て居らぬ。如何なる藝術でも時代によ

つて多少のそれが出來てゐる、明治は未だ

一俳畫に於ても一匠をだも出し得ぬか、日

本畫と云へば直ちに古畫を數へる、洋畫と

いへば未だしといふ、衰頽時代か過渡時代

か何れなるやを知らぬ。兎に角日本畫でも

洋畫でも 大作傑作を澤山作るがよいが、

些細な一俳畫も亦堂々たる一の繪畫であつ

てみれば、これが明治の俳畫書であるとい

ふ人を出してみたい、水彩畫でもやらうと

する人は殊更である、又日本人の特質なる

ものが仰も頗る俳趣味をもつてゐるといふ

からでもある。

*

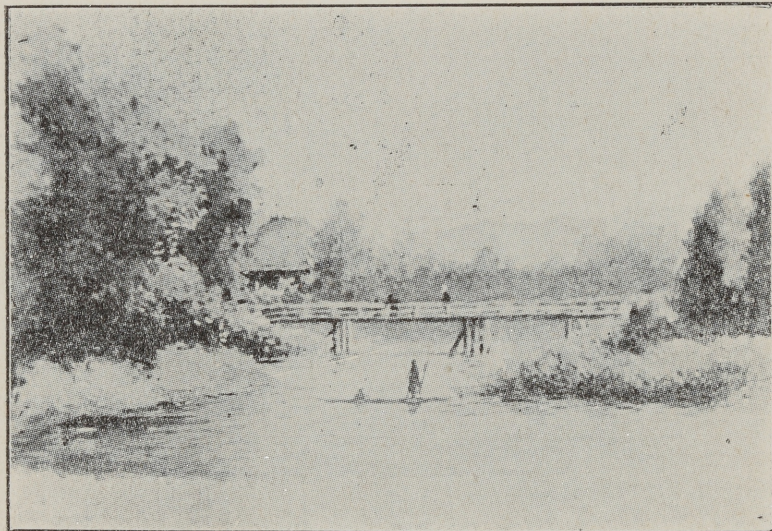
*

*

*

*

*



寫生帖 「一」

■今度の講習で始めて繪といふものが判つた■形が出來たら濃淡、それがドーかコーか出來ると色彩、こいつも稍こぎつた

ら此度は感じが出なくなつてはいけぬといふ

何處迄往つたらよいものか、繪は六つかしい

ものである■墨繪の必要をつく／＼感じた■

大下先生の講話のうち『樹木の綠に黃が足り

ぬ、物に注意することゝキをつけるといふの

はこれから始つたものかも知れぬ』と言は

れたのには思はず笑はされた、今迄それを知

らなかつたのはキの利かぬ次第さ■暑い／＼

天王寺で日蔭のつもりで三脚を下すと、いつ

か日向になつてしまふ、さぞ暖かだろうと冷

笑してゆく奴もある■二丁も三丁も離れ／＼

に寫生してゐる中を、幾度も見廻つて歩行く

先生達の勞は多謝します■参考品として西洋

の名畫を澤山見せられた時は歸るのが厭にな

つた■モ一仕舞ですかと散會の時さも／＼殘

念さうに溜息を吐いてゐた人もあつた。

正會員 高橋松治筆

*

*

*

*

*

*